

肉用雌牛の繁殖障害要因の除去

(1) 繁殖障害状況調査

千葉好夫 山城存 比嘉直志

I 要 約

肉用雌牛の繁殖障害要因を明らかにする目的で、本島北部および中南部の家畜診療データ(1998年度から2000年度)をもとに繁殖障害の実態を調査した結果は以下のとおりである。

1. 北部地域の繁殖障害牛の治療件数は3270件で、治療件数全体の58%を占め、中南部地域の繁殖障害牛の治療件数は1430件で、治療件数全体の38%を占めていた。
2. 北部地域の繁殖疾病別内訳では、鈍性発情32%、卵巢静止30%、黄体遺残21%が繁殖疾病全体の83%を占め、中南部地域では、鈍性発情23%、卵巢静止22%、卵胞嚢腫13%が繁殖疾病全体の58%を占めていた。

以上のことから、肉用雌牛の繁殖障害要因として繁殖障害が関与していることが明らかになり、繁殖疾病の2大疾病である鈍性発情および卵巢静止を防除することが繁殖障害要因の除去に有効な手段であると考えられる。

II 緒 言

本県は肉用牛子牛の大生産地として発展してきているが、繁殖農家にとって繁殖障害は大きな生産性障害要因となっている。しかし、本県における繁殖障害の実態については明らかにされていない部分が多い。

そこで、今回は繁殖障害要因を明らかにするため、本島地域の繁殖障害状況調査を実施したので報告する。

III 材料および方法

1. 材料牛

材料牛は1998年度から2000年度までに治療された黒毛和種繁殖雌牛(成牛)の治療件数9454件を対象に繁殖疾病件数を調査した。また、繁殖疾病の地域的な差異を検討するため、本島北部および中南部地域に分けて調査した。

2. 調査項目

調査項目は月ごとの治療件数および繁殖疾病件数である。

IV 結 果

1. 北部地域の繁殖障害状況調査

繁殖障害治療件数内訳(北部)を表1に示した。5675頭の治療件数のうち、3270件が繁殖障害による治療件数で、治療件数全体の58%を占めた。繁殖疾病別内訳では、鈍性発情32%、卵巢静止30%、黄体遺残21%で、繁殖疾病全体の83%を占めていた。また、繁殖疾病合計月平均273件に対し、6月は662件と最も多く、治療件数合計では月平均473件に対し、6月は825件と多かった。

2. 中南部地域の繁殖状況調査

繁殖障害治療件数内訳(中南部)を表2に示した。3779件の治療件数のうち、1430件が繁殖障害による治療で、全体の38%を占めた。繁殖疾病別内訳では、鈍性発情23%、卵巢静止22%、卵胞嚢腫13%で、繁殖疾病全体の58%を占めていた。また、繁殖疾病合計月平均119件に対し、9月は199件と多く、治療件数合計では月平均315件に対し、9月は417件と多かった。

表1 繁殖障害治療件数内訳(北部)

平成10年度から12年度調査 単位:件, %

疾病名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	割合
排卵遅延	18	17	16	6	19	6	9	8	17	12	7	4	139	12	4
卵巢静止	83	63	233	35	100	71	88	88	102	52	48	32	995	83	30
発育不全黄体	6	4	1	4	9	0	1	0	3	2	3	0	33	3	1
鈍性発情	83	81	221	66	73	44	136	99	103	56	57	14	1033	86	32
黄体遺残	39	47	139	54	44	51	69	84	89	31	38	16	701	58	21
卵巢萎縮	6	0	14	2	11	3	7	2	4	2	1	0	52	4	2
卵胞嚢腫	2	2	3	0	2	2	1	2	2	2	3	2	23	2	1
子宮疾患	9	8	16	3	22	11	16	13	10	4	5	1	118	10	4
その他繁殖疾病	23	21	19	14	14	5	9	10	17	20	5	19	176	15	5
繁殖疾病合計	269	243	662	184	294	193	336	306	347	181	167	88	3270	273	
治療件数合計	466	389	825	428	470	459	521	592	569	406	360	190	5675	473	

注) 割合は繁殖疾病合計に対し, 各疾病割合。

表2 繁殖障害治療件数内訳(中・南部)

平成10年度から12年度調査 単位:件, %

疾病名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	割合
排卵遅延	1	4	6	3	8	7	3	4	1	4	4	2	47	4	3
卵巢静止	33	27	32	18	22	45	32	25	18	21	34	10	317	26	22
発育不全黄体	11	4	12	7	2	9	2	7	14	12	5	5	90	8	6
鈍性発情	16	21	46	40	27	39	38	25	21	21	16	16	326	27	23
黄体遺残	10	4	8	10	7	16	16	6	7	8	9	5	106	9	7
卵巢萎縮	9	10	9	12	4	18	9	13	6	9	4	2	105	9	7
卵胞嚢腫	5	30	10	15	13	35	16	20	7	13	14	4	182	15	13
子宮疾患	5	7	9	3	3	10	4	2	5	6	4	3	61	5	4
その他繁殖疾病	16	18	19	16	13	20	17	16	16	11	15	19	196	16	14
繁殖疾病合計	106	125	151	124	99	199	137	118	95	105	105	66	1430	119.2	
治療件数合計	332	277	297	300	281	417	353	358	346	338	304	176	3779	314.9	

注) 割合は繁殖疾病合計に対し, 各疾病割合。

V 考 察

繁殖障害の占める割合は, 北部地域で58%, 中南部地域で38%を占め, 繁殖障害が依然として繁殖農家にとって大きな生産性阻害要因となっている。両地域の差は20%に及ぶが, その原因を明らかにするには飼養形態, 飼養管理状況および給与飼料などを調査分析する必要がある。疾病別内訳では両地域とも鈍性発情と卵巢静止が2大疾病であり, 金田ら¹⁾の報告と一致していた。鈍性発情はとくに乳量の多い乳牛, 子牛に哺乳中の肉牛, 肥満気味の乳牛, 舎飼で飼養管理条件の悪い牛, 群飼で階級序列の低い牛に多発するといわれ, また, 卵巢静止では飼育管理の不適, 給与飼料の量的・質的な不足, 劣悪な飼養環境が誘因になると考えられている²⁾ことから, 飼養管理状況の改善による疾病の発生予防が必要である。また, 北部地域では各年度を通じて6月の治療頭数および繁殖疾病頭数が多く見られたが, その要因については不明である。

今回の調査では肉用雌牛の繁殖阻害要因として繁殖障害が関与していることが明らかになり, 繁殖疾病の2大疾病である鈍性発情および卵巢静止を防除することが繁殖阻害要因の除去に有効な手段であると考えられる。

謝 辞

家畜診療データの提供をしていただきました沖縄県農業共済組合連合会, 名護家畜診療所所長与那覇昌功氏および中央家畜診療所所長阿部聡氏に感謝の意を表します。

VI 引 用 文 献

- 1) 金田義宏・小笠晃, 1998, 繁殖障害, 山内亮監, 朝倉書店, 最新家畜臨床繁殖学, 195-196
- 2) 金田義宏・小笠晃, 1998, 繁殖障害, 山内亮監, 朝倉書店, 最新家畜臨床繁殖学, 242-251